

情報クリップ

農業情報ピックアップ

8/23 東日本で果物・野菜の盗難続発

ナシ、ブドウ、スイカにカボチャ、枝豆、ミニトマト。この夏、東日本を中心に農作物の大量盗難が相次いでいる。収穫直前をねらい、夜間、短時間で盗む手際の良さから、「玄人に違いない」とプロの窃盗団の存在もささやかれている。

被害を受けた農家は自警団を組織したり、夜間の見回りを強化したりと防衛に必死だ。ビニールハウスに人が近づくと感知する防犯ブザーを設置したナシ農家もある。しかし、「風が吹いただけで鳴ることがあり、あまり役に立たない」との声もある。
(読売)

国際関係

8/26 農業合意半年先送りへ

WTOを舞台にした新ラウンドで主要加盟国は、メキシコ・カンクンで開かれる第5回WTO閣僚会議の半年後をめどに、当初予定になかった閣僚会議を招集、農業自由化などの大枠（モダリティ）合意を目指す方向で検討を始めた。

先進国と発展途上国の対立が解消できず、カンクン閣僚会議で農業自由化、非農産品市場開放など新ラウンドの核心部分で大枠合意に達することを事実上断念した。大枠合意を半年間先送りすることになり、04年末までの一括合意を目指す新ラウンド全体の日程にも影響が及ぶ恐れが出てきた。(共同)

8/27 肉類など除き原則関税撤廃へ

メキシコとのFTA交渉の焦点である農業分野で、日本政府は関税撤廃品目の候補を決めた。メキシコが要望する豚肉など一部肉類を除く代わり、ほかの農産品は原則全面撤廃する。農業以外でも、皮革で一部を撤廃する方向。大幅譲歩をアピールしてメキシコ側の理解を得たい考えだ。

調整の結果、豚・牛・鶏肉と関連製品の計約60と、メキシコの要

望リストから外れる可能性のある品目などを除外。これに対し、野菜や果実、コーヒ、卵など、重要度の高い品目も含む残る約300品目で、関税を撤廃する方針を決めた。
(朝日)

8/28 EU、地名ブランド農産品の保護強化へ

EU欧州委員会は、地名に由来する農産品ブランドの保護を強化するため、イタリアのパルマハム、フランスのコニャックなど欧州内の地名に由来する41品目のリストを発表した。9月にメキシコで開かれるWTO閣僚会議に提出、世界規模での地名ブランド保護をめざす。

WTOは、ワインや蒸留酒については、すでに地理表示を保護しているが、EUは他の食品や飲料品に同様の保護を広げるよう求める考えだ。
(朝日)

低温・日照不足

8/23 大冷害の再来恐れる農家

記録的な低温と日照不足が続く東北地方。仙台市では7月の平均気温が18.4℃と観測史上最低を

記録、水稲の生育は平年より数日から10日前後遅れ、いもち病などの病害が目立っている。作況指数が56となった1993年の大冷害の再来を心配する声が各地のコメ農家から上がっている。

東北農政局は「品種転換の効果で93年のような凶作にはならないと思うが、これ以上天候不順が続けば、どのぐらい被害が広がるかは未知数」としている。
(共同)

8/25 政府備蓄米の販売早める

農林水産省は、冷夏に伴う新米の収穫の遅れでコメの小売価格の上昇が懸念されるとして、政府備蓄米の販売を一部で例年より早め、価格の安定を図ることになった。

コシヒカリやあきたこまちなど、いわゆるブランド米は、例年9月下旬から10月上旬にかけて新米が出回り始めるが、今年の収穫は冷夏の影響で例年より遅れる見通し。これに対して農林水産省は、政府が不作に備えて保管している備蓄米の一部について販売を例年より2ヶ月程度早めることで価格の安定を図ることにし、14年産のコメについて8月末からおよそ4万tを卸業者に供給することにしていく。
(NHK)

8/26 コメ、前年比3割高の高騰

自主流通米価格形成センターは、03年産自主流通米の第2回入札結果を発表した。上場された2銘柄（千葉、福井）の平均落札価格は、前年比27.9%（4330円）高の1万9853円（60kg）と大幅に値上がりした。

長梅雨や冷夏など、天候不順によるコメの作柄への悪影響が懸念されているため、市場関係者は

「品質感が強まっている」と話している。
(共同)

8/26 低温響き「著しい不良」

農水省の8月調査のコメ作柄概況（8月15日時点）で、7月に低温が長引き天候が不順だったことを背景に、北海道と東北3県が「著しい不良」となるなど、不作地域が多いことが分かった。

北海道のほか青森、岩手、宮城の3県の作柄が「著しい不良」。福島、三重が「不良」、山形、新潟、茨城、栃木、千葉、長野、富山、石川、福井、滋賀、鳥取、島根県は「やや不良」。秋田県は「平年並み」となる模様だ。
(共同)

食品安全性

8/7 食の生産履歴、全品目で

農相の諮問機関である食料・農業・農村政策審議会は、消費・安全分科会の初会合を開き、来年3月までの活動計画を提出、同分科会は了承した。

活動計画によると、企業の法令順守体制を確立するために、内部通報者に対する農水省側の対応マニュアルを来年3月ごろまでに作成。食品の生産履歴（トレーサビリティ）については、既に仕組みを策定した牛肉以外の全食品を対象として、管理推進のための方策を来年3月ごろまでにまとめる。
(共同)

8/15 生鮮食品でICタグ実験

農水省は、超小型のICタグを生鮮食品などに付け、物流合理化を図る実験に乗り出す方針を決めた。流通コストを削減し、食品の鮮度など品質向上を図るのが狙い。

来年度から2年間の実験を経て、早期実用化を目指す。ICタグは本体が3mm角程度。電波を感知するアンテナ部分を含めると、マッチ棒サイズから名刺サイズまで各種ある。無線通信でデータの読み書きが簡単にできるため、パソコンに代わる次世代の商品管理手段として期待されている。(共同)

8/18 「有機」の残留農薬など検査

農林水産省はJAS法に基づき「有機」「オーガニック」と表示しているコメや野菜、果実などが、農薬や化学肥料の使用基準を守られているかどうか、全国調査に入ると発表された。国の信頼性調査は初めて。有機農産物は、気象条件などでやむを得ない場合を除いて農薬や化学肥料の使用は認められておらず、不正が見つかった場合は立ち入り検査や、販売停止などの行政処分に踏み切る。(毎日)

テクノロジー

8/7 イタリアで初のクローン馬誕生

イタリア北部クレモナにあるスパランツァーニ畜産研究所のチェザレ・ガリ博士はクローン技術を使って雌馬に自分と同じ遺伝子を持つ子馬を出産させるのに成功したと発表した。母と子が同じ遺伝子を持つ「双子の関係」にあるクローンは世界初。クローン馬も初めて。(共同)

8/8 鉄でコーティングした種もみを開発

近畿中国四国農業研究センターが、水田への直まき用に、鉄で特

殊コーティングした種もみを国内で初めて開発した。

種もみは水に浮きやすく、着床しにくい点をクリアするため、磁石にくっつくほどの鉄コーティングで、重さを3倍以上にした。

実験で鉄分は土に戻り、苗の生育率も良好。センターは「土壌の鉄分不足で収穫が減る『秋落ち』対策にもなり、一石二鳥」とPRしている。(毎日)

8/29 牛の餌に杉の間伐材利用

BSEなどの発生で家畜飼料の安全性に関心が集まる中、宮崎市の木材チップ製造の九州産業などは、杉の間伐材を原料に家畜の粗飼料を製造する技術を開発した。「ウットンファイバー」と商標登録された粗飼料は、間伐材を数cm大に砕いて4気圧、150〜160℃で3時間蒸した後、糸くず状にすりつぶして製造。通常の粗飼料を与えた牛との比較試験では、下痢が減り毛づやが良くなり、乳牛の牛乳生産量や肥育牛の肉質などで良い結果が得られたという。(共同)

トピックス

8/27 農業の「担い手」定義 農水省、補助事業の対象明確化へ

農水省は、補助事業の対象などになる農業の「担い手」に認定する定義を初めてまとめる。今後は原則として、営農の計画をつくるなどして自治体から認定された農業者・団体だけを「担い手」として位置づけることにする。

来年度から本格始動するコメ改革など農水省の各種事業では、補助などを重点化する対象が「担い

手」とされているが、従来は減反や農地の賃貸促進などの事業ごとに、担い手の定義が異なったり、定義がなかったりと、整合性がなかった。そこで、望ましい営農や就農の計画をつくるなどして、市町村や都道府県から認定を受けた農業者を「担い手」とすることにした。(朝日)

8/29 01年度農業生産額、7年連続で減少

農林水産省がまとめた01年度の「農業・食料関連産業の経済計算」によると、生産者価格と生産量を掛け合わせた国内の農業生産額は、前年度比3.05減の9兆8011億円と、7年連続のマイナスとなった。1975年度の9兆8661億円を下回る水準で、26年ぶりに10兆円の大台を割り込んだ。コメは自主流通米の価格は上昇したが生産量が減ったため、生産額は前年度比4.6%減の2兆3004億円と7年連続減。野菜は生産量の減少に加え、根菜類の価格が下がったことから、2.3%減の2兆603億円だった。(読売)

9/2 遺伝子組み換え花粉症緩和 和米を商業生産 07年度にも

農水省は、スギ花粉症の治療に効果のある遺伝子組み換え米の商業生産が07年度にも実現する見通しとなったことを明らかにした。実現すれば、コメを含めて食用の遺伝子組み換え作物の商業生産は日本で初めてとなる。これは農業生物資源研究所、日本製紙、全農が共同開発しているもので、動物実験や臨床試験で安全性を確認後、商業生産に入る計画。(毎日)

10月のイベント

(国内)

●食品開発展 Hi/Sec-tec 2003

10月7〜9日
会場 東京ビッグサイト
内容 食品分野の機能性と安全性に関する先端情報を紹介する展示会。
問い合わせ先 CMPジャパン
TEL 03-5296-1020
公式サイト <http://www.hijapan.info/>

●外食産業フェア

10月8〜10日
会場 サンシャインシティコンベンションセンター Tokyo
内容 業務用食材、関連商品の展示会。
問い合わせ先 日本外食品卸協会
TEL 03-5296-7723
公式サイト <http://www.gaisshoku.jp.or.jp/>

●BioFach Japan自然の恵みフェア

10月10〜11日
会場 東京ビッグサイト
内容 ドイツ・ニュルンベルグのBioFachワールドオーガニックフェアをモデルとしたオーガニック専門トレードショー。
問い合わせ先 エービーシーエンタープライズ
TEL 03-5404-7351
公式サイト <http://www.ruemember.gglobalfair.com/ya/BioFachJapan2003/>

●産地直送いいもの博覧会 第4回

全国地場産フェア 10月10〜12日
会場 サンシャインシティコンベンションセンター Tokyo
内容 全国各地の優れた地場産業製品を一堂に集め、展示・即売を展開する販路拡大のための展示会。
問い合わせ先 「第4回全国地場産フェア」運営事務局
TEL 03-5733-4380
公式サイト <http://jibasan-fair.com/>

●2003東北外食産業フェア

10月28〜29日
会場 仙台卸商センター・サンフエスタ
内容 業務用食材、関連商品の展示会。
問い合わせ先 日本外食品卸協会
TEL 03-5296-7723
公式サイト <http://www.gaisshoku.jp.or.jp/>

●iba 01E0〜01H

会場 Messegaende (ドイツ・デュッセルドルフ)
内容 製菓・製パン専門の見本市。
問い合わせ先 メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン
TEL 03-5210-9951
公式サイト <http://www.messe-duesseldorf/>

●anuga 10E11〜15日

会場 Messegaende (ドイツ・ケルン)
内容 世界最大級の食品フェア。
問い合わせ先 ケルン・メッセ日本事務局
TEL 03-5405-2202
公式サイト <http://www.koelnmesse.jp/ANUGA/>